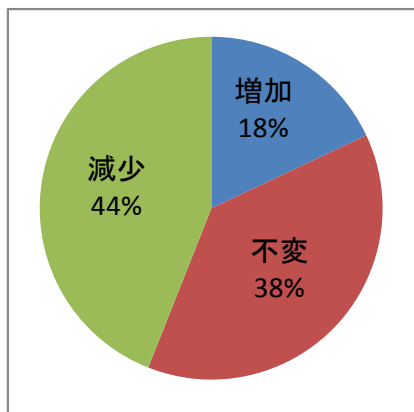


■ データから見た業界の動き

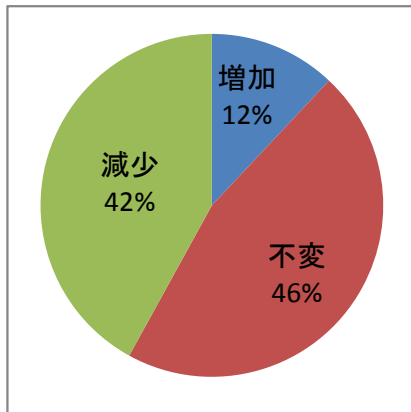
(平成24年11月分)

● 2011 / 11

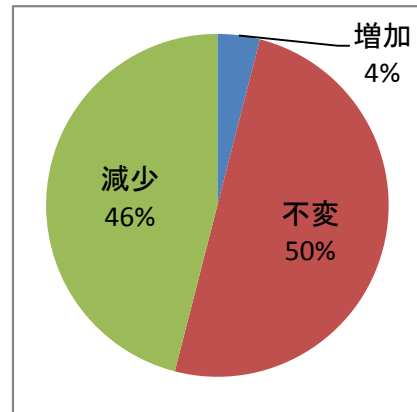
売上高 (前年同月比)



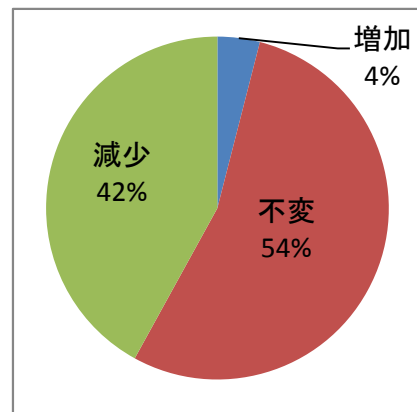
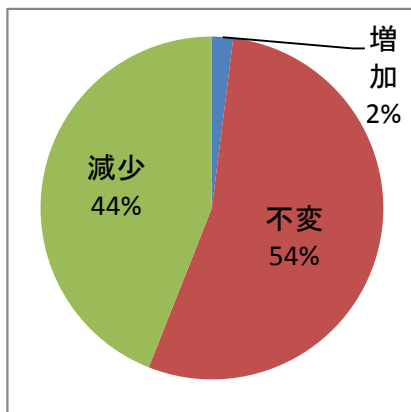
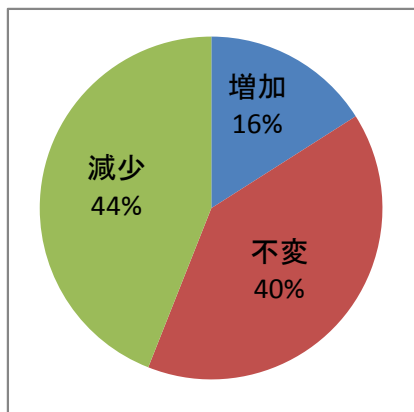
収益状況 (前年同月比)



景況感 (前年同月比)



● 2012 / 11



■ 対前年同月比及び前月比景気動向DI値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2011/11	2012/10	2012/11	2011/11	2012/10	2012/11	2011/11	2012/10	2012/11
売 上 高	-50	-30	-30	-10	-10	-27	-26	-18	-28
収 益 状 況	-45	-45	-45	-20	-30	-40	-30	-36	-42
景 況 感	-50	-90	-45	-37	-40	-33	-40	-60	-38

※（（良数値÷対象数）×100）－（（悪数値÷対象数）×100）＝D.I値

■ 概 況

本県の11月の景況は、全業種のDI値が、売上高-28(前年同月比-2)、収益状況-42(前年同月比-12)、景況感-38(前年同月比+2)となった。業種別のDI値では製造業で、売上高-30(前年同月比+20)、収益状況は-45(前年同月比0)、景況感-45(前年同月比+5)。非製造業で、売上高-27(前年同月比-17)、収益状況-40(前年同月比-20)、景況感-33(前年同月比+4)となっている。

前月比全体では景況感は22ポイント大きく回復した。要因は製造業の45ポイントの改善にあるが、売上高、収益状況は悪化している。特に、非製造業では売上高17ポイント、収益状況10ポイントの悪化となっている。

情報連絡員による県内の11月の業況報告は、全体的に厳しい状況に変化は見られず、先行きへの不安感が増している様子が窺える。尖閣諸島国有化問題に加え海外経済の減速や円高の影響による業況の悪化、また、原材料の値上がり、消費の低迷・落ち込みによる売上の減少など、製造業、非製造業ともに問題は多く電気代の値上がりや消費税の増税問題による消費者の購買意欲の減退は先行きの不透明感を強めている。

■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測(売上高・原材料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

● 製造業

食料品（水産物加工）	婚礼用の生食材やおせち関係は前倒し受注もあり好調。自社製品のギフトも前年並み。売上は前年同月比114%。
食料品（洋菓子製造）	流通問屋向け商品は停滞気味だが、冷凍ケーキ等が好調のため売上は前年同月比109.2%。
食料品（菓子）	イベントや行楽シーズンを迎えているが売上に結びつかない。
繊維・同製品（織物）	寒さの影響でマフラー等の店頭動きは良いが、産地への追加発注は少ない。ネクタイの受注はあるが、制服対応の低価格のポリエステルが中心となっている。
繊維・同製品（アパレル）	全体的に売上、仕事量ともに前年並みだが、仕事が減少している企業が一部で見られる。先行きが不安である。
木材・木製品製造	売上が減少傾向にあるが12月は忙しくなる見込み。
窯業・土石（砂利）	リニアなどの大型工事が具体化しなければ厳しい状況は改善しない。
窯業・土石（生コン）	甲府地区の大型既契約物件のコンクリート需要も徐々に終息を迎え出荷量は減少傾向。公共工事費の削減による需要の減少が危惧される。
鉄鋼・金属(1)	大手企業が軒並み業績が悪化しているため、売上および仕事量が激減している。3月頃までは回復の見込みがない。
鉄鋼・金属(2)	改善の兆しはなく、ますます悪化傾向にある。
一般機器(1)	中国向けの仕事が停止しているため、仕事がない。今後の見通しはつかない。
一般機器(2)	スマートフォンやタブレットの型枠のみ一時的に増加傾向にあるが、年明け以降の動向は不透明である
電気機器	受注量が前年に比べ20～30%以上の減少。更に来年1月頃まではもっと悪化すると思われる。
その他(貴金属①)	中国の不買運動の影響があり、売上、集客共に落ち込んでいる。また、金の値上がりも悪影響を及ぼしている。
その他(貴金属②)	仕事がなく厳しい状況である。

● 非製造業

卸売（塗料）	末端の消費がかなり冷えているため大手量販店向け売上は、減少傾向。尖閣諸島国有化問題等による中国の影響により得意先でも売上が減少する企業と売上が増加する企業とに分かれているが、全般的には電気や原材料、石油等の高騰により今後の収益が悪化する可能性が大きいと思われる。
卸売（紙製品）	尖閣諸島国有化等の問題の影響により中国との見通しが立たないため当面取引が悪化したままである。
卸売（ジュエリー）	一部のメーカーブランドが海外生産を縮小し国内生産に切り替えたため、忙しい企業もあるが業界全体では厳しい状況にある。本来ならばクリスマス、年末年始商戦で繁忙期だが、最近はそのような季節感が感じられない。
小売（青果）	年末を控え、野菜や果物などの入荷量が增大している。
小売（食肉）	牛肉の売上不振が続くなか、東日本大震災の影響で成牛の出荷量が落ち込み、枝肉価格が上昇している。豚肉・鶏肉・惣菜は昨対を上回ってきたため、なんとか持ちこたえている状況。電気料金の値上げの影響で収益は減少している。
小売（水産物）	食品を取り巻く業況は悪化傾向にある。先行き不透明である。
小売（電機製品）	冷蔵庫や省エネ家電は好調。太陽光発電への取組がやや活発化しつつある。
小売（石油）	11月は中東産の原油輸入価格の下落により元売りのガソリンと中間産品（灯油、軽油、重油）の価格が値下げされたため、県内のSS給油所は1リットルあたり1円程度の値下げとなった。12月は、中東情勢の緊迫化により原油が上昇した上、円安ドル高により元売りの卸価格が1リットルあたり2～3円の値上がりが見込まれる。
商店街（1）	B-1グランプリ等のイベント時には賑わいを見るが、組合員の売上には結びつかない。
商店街（2）	秋の紅葉シーズンでイベントも多く観光客の往来も増え、飲食店を中心に若干、活気が感じられた。しかし、忘年会の予約は相変わらず低調。
宿泊業	紅葉のシーズンに入り観光客は、平年並みであった。「関東・東海B-1グランプリ」が開催され、参加団体の宿泊を受けることができた。
美容業	秋の行楽やブライダルシーズンにもかかわらず美容院への入店数やブライダルの引受件数等は、前年より減少している。
警備業	継続事業以外には新規事業はなく業界全体が低迷期にある。事業の多くが短期事業のため、雇用人員に影響を与える可能性がある。
建設業（総合）	建設業界の若年入職者が減少している。また、技能労働者の高年齢化が課題となっている。
建設業（鉄構）	安値で推移している。組合員の企業格差が広がっている。
設備工事（電気工事）	受注量の減少で競争が激化しているため請負価格が低価格し事業継続が困難になっている企業もある。建設関連の企業は、先行きの見通しが不安なため、若者が定着できない状況にある。

運輸（タクシー）	「関東・東海B-1グランプリ」が開催されたが、売上増には結びつかなかった。
運輸（トラック）	例年11月は物量が落ち込むが、今年は一段と悪い。輸出入関係の輸送に関しては、特に中国への物流が低下している。